

神奈川の道徳

大盛況！！ 神奈川支部「第5回 研究大会」

研究大会テーマ 「『特別の教科 道徳』で進める主体的・対話的で、深い学び」
～「主体的・対話的で深い学び」を目指した道徳科の授業展開と評価～



平成29年12月23日(土)、5回目の「日本道徳教育学会神奈川支部」研究大会が開催されました。今年も神奈川県に限らず、愛知や新潟など、各都県から多くの参加がありました。例年をはるかに超えた会場定員いっぱいの参加者で熱気がある研究大会になりました。

今年度も第1部では、小学校と中学校の実践研究提案がありました。

小学校の提案では、横浜市立東本郷小学校教諭の神戸雄介先生より、「自己を主体的に見つめ、よりよい生き方を求めようとする心を育てる道徳科の指導の在り方とその指導」～『自己の生き方についての見方や考え方を深める振り返り』～というテーマの実践発表がありました。神戸先生からは、

- ① 児童の実態把握と学習課題の設定の在り方について
- ② 児童が判断基準を見つめ直すことにつながる価値把握の在り方
- ③ 自己の生き方についての見方や考え方を深める振り返りの在り方

の3点を中心に研究をすすめていることとともに、5学年C-(16)よりよい学校生活、集団生活の充実についての授業実践の報告がされました。

事前アンケートの実施と活用、担任以外の教諭との連携した見取りという実態把握の手立てや児童の実態と指導の方から「自分のことで…」「自分が楽したい」この考え方を乗り越えて、他学年から信頼されるように活動していくためにはどのような考え方が必要だろう。という学習課題の設定をしました。発問では、児童が今の自分たちの見方・考え方に似ていることに気付かせるようにすることや、中心発問では、他学年の「思い」に気付くとともに、高学年としての自覚に気付いた登場人物の考えを問うことで価値把握につなげていきたいと考えました。授業の工夫としては、キーワードを短冊状にして板書したことがあげられました。また、日頃からよい話し方と聞き方の習慣を継続していること、自分の行動の見方や考え方で振り返ることができるように、他教科の学習後でも振り返る時間を設定し習慣づけていること、行事などと本時で扱う内容項目のねらいを関連付けて指導を行い、児童の問題意識を高める、という日常の指導や支援についても話がありました。授業を通して、事前アンケートの実施により、児童が問題意識の高まりに気付くことができたこととともに、本時においてスムーズに学習課題を提示できたということです。また、担任以外の教諭との連携した見取りにより、視点を明確にしたことで、児童の変化を共有することにより、より確かな実態把握につながったということでした。



中学校からは、「生徒の思考を深めるための課題探求型道徳授業

～評価を容易にするワークシートや自己評価の活用～」

というテーマで、横浜市立旭中学校教諭、東克也先生より提案がありました。

2学年A-(2)節度、節制の授業実践の報告で、

- ① 学習課題の明確化
- ② 生徒の見取り
- ③ 評価

という3つのポイントで提案されました。

生徒の実態として廊下でのじゃれあいなどルールが守られていないという実態から、授業の実践をかけたということです。導入では、動機づけとして普段の生徒の様子を視聴覚機器で見ることで、気付いていない自分自身の行動に目を向けさせました。中心発問では、教材の中から「校長先生の言葉を聞いて、主人公が「涙が出そう」になったのはどうしてか」と問いました。

展開後段では、「なぜ、安全に生活することが大事なのだろう」ということを考えさせました。この問いにより、生徒は“自分の問題”として考えることができました。導入では気付いていなかった自分の行動について、終末では自分自身の現状として気付くことができたことは評価できることであると考えました。ワークシートの内容から、「自分自身の安全」から「周囲の安全」という視点につながる意見をもつ生徒がいました。しかし、発言として引き出すことができなかったのも、意図的指名を行い全体に共有していくことを意識していきたいという今後の課題も見られました。授業後に行う「ふりかえりカード」では、自分の考えや気持ちを発表できたか、友達との意見交流で参考になったものはあったか、授業前後では気持ちに変化はあるか、の3点についてA～Dの自己評価をとっていることも発表されました。



研究総括として富岡栄副支部長（高崎健康福祉大学特任教授）からは、児童・生徒の評価と授業評価を分けて考えるべきこと、型にはまることなく、いくつかのパターンで道徳の授業を展開することなどの話がありました。

続いて、川崎市立浅田小学校教諭 山崎有紀先生より「主体的・対話的で深い学びのある授業」をテーマにした模擬授業が行われました。6学年C-(16)よりよい学校生活、集団生活の充実をねらいとするNHK道徳教材 ココロ部「最後のリレー」を使つての授業です。小規模の学校のため、児童は委員会やクラブ活動などでリーダーになることが多いという実態から、「よりよい学校生活を送るために」という価値で考えさせたいと本教材を使用しての授業を展開しました。NHK道徳教材は起承転結の結の部分がないので、問題解決型に展開しやすいのではないかと考えも発表されました。教材の視聴前には「コジマ君の悩みを考えながら見てください」という一言を伝え、児童に視点を与えながら7分ほど視聴させたということです。実際に、参加者の皆さんにも視聴頂き、「コジマ君はキャプテンとしてどうしたらよいのでしょうか」について考えを発表しました。親友の怪我のことを監督に言うのか、皆に黙っているのか、2つの価値で揺れるコジマ君を考えました。実際の授業では、悩みをウェビング法の紙に書き、道徳ノートに自分の考えを書いた後に全員がネームプレートを貼り、それぞれの考えを共有したそうです。ウェビング法により、多様な考えを広げることができたという報告もありました。模擬授業を受けての研究協議では、ウェビング法は、子どもの考えが可視化できることや、問題解決的な授業展開についてなどについてご意見を頂きました。



その後の記念講演は、諸富祥彦先生（明治大学教授）をお迎えして、
『特別の教科 道徳』で進める主体的・対話的で、深い学び
 ～『主体的・対話的で、深い学び』を目指した授業展開と評価～
 と題して行われました。

モラルスキルトレーニングの必要性（席を譲ろうという心情はあるが、行為に移せない→道徳の授業の中でも「行為」まで行う）やグループでの話し合い活動での「聞き合いの大切さ」（話し合いの時間と聞き合いの時間を分けること）、「番」の発想（1番の人の話を最後まで聞こう）、「分かりやすいデモンストレーション」（1指示1動作）、「拍手」（受け止めてもらえる安心さ）など、新しい道徳のアプローチについて学ぶことができました。また、授業の中で行う「評価」については、「意欲が出るもの」「勇気づけとなるように」というお話も頂きました。子どもたちは、みんなの前で具体的な言葉（肯定的な言葉）でほめてもらいたいという言葉は印象に残るものでした。参加者が自己紹介し合い、自分がはまっていることや大切にしている価値について互いに話題にするなどの時間も設けて下さり、穏やかなムードで笑い声が絶えない記念講演となりました。

